



みせん

瀬戸内海国立公園
宮島地区パーク
ボランティアの会

第41号

発行日
平成22年 9月1日

◇ 目 次 ◇

- | | |
|------------------------------------|-----------------------------|
| P2、3 宮島地区パークボランテ
ィアの会 10 周年記念行事 | P7 生物多様性研修会、包ヶ浦海岸清掃 |
| P4 革簗崎探訪、公募観察会 | P8 野鳥観察会、干潟観察会 |
| P5 7月の入浜定点観測 | P9、10 投稿 中道 勉
田渕 三紀子 |
| P6 宮島二流記 平田 広三郎 | P11 クリーンディ 厳島神社海浜清掃
編集後記 |



革 簗 崎 (こうござき)

宮島の西南端・革簗崎。大潮の干潮時を見計らって5時間の歩行の後やっと到着する。宮島の奥深さを感じる場所である。「安芸の宮島廻れば七里

浦は七浦七恵比須」

今回帰路に須屋浦と御床浦を訪れてい

る。杉の浦、鷹ノ巣浦、腰細浦は、おなじみの場所。残るは青海苔浦と山白浦。さて来年「お島廻り」宮島一周にチャレンジしましょうか。

(本号P4に探訪記)

(文・写真) 岩崎 義一

PVの会 10周年記念行事 盛況裡に開催

(式典参加) 足立 井上 岩崎 小方ペア 小川 金山 釜谷 川崎 北野 小林ペア
佐伯 佐藤(佐) 佐藤(庸) 島 末原 田中 中道 平田 平野 佛崎 舩田
松尾 松田 三次 村上 柳瀬 横路
(写真展運営搬入・協力) 上記以外 大成 大西 奥田 富田 平山
(環境省) 西野保護官 大高下 AR ・ 河原課長 西保護官

宮島地区パークボランティアの会は平成 12 年発足から今年 10 周年の節目にあたり、記念行事を 6/3(木)～8 日(火)の期間「ぎやらりい宮郷」において開催し、盛況のうち終了した。

2 年前より、10 周年記念に相応しい行事をどのように行うべきか、「みせん」誌上で企画案の募集を行い、数多くの応募の中から最終的に写真展と『新宮島八景』の選定、及び記念式典の実施に決まった。

今年初めより 10 周年記念行事実行委員会を立ち上げ、会員の運営参加、協力のもと、万全の準備で臨んだ。



写真展は会員の案内チラシ配布や宮島島内への新聞折り込みチラシ、中国新聞などの記事により、6 日間で 400 名近い来場があり、PV 活動を広く知ってもらうことが出来た。

また記念式典は 6/5(土)に執り行い、環境省及び地元宮島の関係者、支援頂いている方々を招待、会員とともに 10 周年記念を祝賀した。(一連の 10 周年記念行事を記録に留めておくべく、今年秋に「みせん」特集号を発行します)

◎10 周年記念の写真展

写真展は 10 年間活動の蓄積の中から厳選し

た 44 枚の写真を展示した。

○「パークボランティアが選んだ新宮島八景」と「弥山への道」写真

○「宮島の植物」写真

○10 年の歩み-----PV 活動紹介写真

○「みせん」「生き物みつけ」関連冊子展示

『新宮島八景』は総会時に 14 の候補の中から会員の投票によって選ばれ、選外は「弥山への道」としてまとめた。宮島の知られざる魅力の発見として好評であった。今後は公募観察会などを通じて『新宮島八景』を広めていきたい。



◎記念式典にて とともに祝う

記念式典は来賓 10 名、環境省から 4 名、PV29 名の出席のもと「ぎやらりい宮郷」一杯になるほど盛大にかつ厳粛に行われた。足立副会長の進行に従い村上会長の主催者挨拶、岡山から出席の河原課長より環境省挨拶があり、引き続いて来賓祝辞を頂戴した。廿日市市・田中環境産業部長より「「みせん」での取り組みにいつも注目している。今後も協力願いたい」地元代表として佐々木市会議員から「地道な 10 年の努力に感謝します。今後も地域の情報発信に力を発揮して欲しい」との励ましの言葉があった。

他に広島大学実験所、大聖院、宮島支所、観光協会、宮島ロープウェイなど日頃お世話になっている方々を紹介した。設立時保護官の杉本頼優氏（現在札幌勤務）のメッセージ披露は設立時の思い出に感動的であった。

「PV が選ぶ新宮島八景」発表のあと舩田観察部会長より「宮島の植物」写真解説があり、祝賀会へと移り懇親の場としました。前任の西保護官も松山から駆け付けて来て頂き出席されました。



来賓出席の方々

早くも 次の15周年記念の行事の話題もですが、会員一致協力して地道に息長くPV活動を続けていきたいものである。10周年記念行事については5/15と6/6の中国新聞朝刊、6/4のTSS番組で紹介された。（岩崎 義一）



↑ ↓ 記念式典の後、祝賀茶話会



PV10周年新聞記事



↑ 村上会長の挨拶

式典参加者 ↓



2010年(平成22年)5月15日(土曜日)

宮島の環境守って10年

ボランティア 来月 記念の写真展

宮島(廿日市)で活動する環境保護団体「宮島地区パークボランティアの会」が6月、結成10周年を迎える。台風被害にあった汽水池の再生や明治時代に築造された砲台跡の整備など、世界遺産の島の自然や歴史を守る取り組みを続けている。

(山本秀人)

環境省の呼び掛けで2000年発足した。会員は広島市や廿日市などの48人。現在、特に力を入れるのが、島東部の入浜にある汽水池の再生だ。池は、1990年代からの相次ぐ台風で海砂が押し寄せ、海と池をつなぐ水路が埋まって淡水化。動植物の生態に影響が出ていた。会は07年、重機やシャベルで砂を掘り起こし水路を復活。大潮の満潮時には海水が流入するようになった。その後も清掃活動や、水質・生物調査を続け、今年、これまでに30種のトンボ、89種の植物を確認している。

活動は自然保護にとどまらない。明治期に旧砲台が築いた崖・果樹園の整備には、設も島の自然や歴史を大立ち初めから取り組んできた。遺構を覆う草木を話している。

式典も開く。村上光春会長は「知れば知るほど宮島は素晴らしい島。今後、島の自然や歴史を大切にしていきたい」と話している。

6月3〜8日、記念の写真展を島の「ぎやらい宮郷」で開く。会員が選んだ「新宮島八景」をはじめ、島の植物などを写した42点を展示。5日には記念式典も開く。村上光春会長は「知れば知るほど宮島は素晴らしい島。今後、島の自然や歴史を大切にしていきたい」と話している。

を払い、司令室などの場所を再確認。島の近代史を学ぶ場として活用している。

弥山登山道の道しるべ「町石」調査や年3回の公衆自然観察会、海岸の清掃活動なども続ける。

6月3〜8日、記念の写真展を島の「ぎやらい宮郷」で開く。会員が選んだ「新宮島八景」をはじめ、島の植物などを写した42点を展示。5日には記念式典も開く。村上光春会長は「知れば知るほど宮島は素晴らしい島。今後、島の自然や歴史を大切にしていきたい」と話している。

革簗崎探訪 観察会

日 時 5月29日(土) 8:00~18:00

参加者 岩崎 川崎 北野 小林 舘 佐藤 佐
佐藤 庸 平田 平野 舛田 三次

8時 宮島栈橋集合。岩崎リーダーと舛田部会長から本日の行程について説明があった後、乗用車とタクシーに分乗して広大宮島植物実験所のある室浜へ。準備運動をし、8時35分いよいよ革簗崎を目指してスタートしました。

広大のシダ調査地や当会で手入れしたコバンモチの生育状況なども観察しながら9時50分大川浦に到着。ここで10分休憩して10時50分には御床浦着、満潮に浮かぶ御床神社(亀甲岩のあるところ)で記念撮影しました。



御床神社の前で

その後、山道をぬかるみに足をとられながら約1時間歩行して青い海の開けた江の尻へ。12時10分 池のほとりで昼食、休憩。12時45分出発。あての木を経て革簗崎手前では崖をロッククライミングするなど大変な経験をして13時50分にやっと革簗崎へ到着。堅牢な城塞を思わせる先端部分で記念写真を撮り達成感に浸りました。

14時10分帰路に。ゴミの収集をしながら潮の引いた同じ道をあての木へ。あての木池では水質調査も実施して、江の尻、長浦、平根を通過して須屋浦まで海岸歩行。15時45分須屋浦着。15分休憩して出発。潮のない御床神社前で再度記念写真を撮り、あとは疲れから口数は少なくなるものの、海の生物や浜辺のイワタイゲキの群生を見たり、

烏帽子岩、内侍岩の説明を聞きながら17時30分に室浜へ到着しました。

ゴミ分別をして閉会の後、乗用車とタクシーで栈橋へ、18時解散しました。

想像以上の辛く長い行程でしたが、青い空・海、岩船の山なみ、小鳥のさえずり、自然の海岸、すべてに感動したすばらしい革簗崎への探索でした。(平野 清)

毛利元就の博打尾

梅雨時の公募観察会

日 時 6月19日(土) 9:00~14:00

集合場所 包ヶ浦公園管理センター

参加者 岩崎 小方ペア 小川 小林ペア
坂本 島 中道 平野 舛田 丸平
村上 横路

(環境省) 西野自然保護官 大高下AR

一般公募による「自然と歴史文化探訪(博打尾コース)」が、前日までの雨で開催が危ぶまれていましたが、曇り空・蒸し暑い中、開催されました。(一般参加者23名)

はじめに村上会長の地球温暖化による絶滅危惧種の増加と「いきものみつけ」の報告依頼のお願いを含めたあいさつ、小方(嗣)会員の自然保護に関する話と小川会員の鹿自身の食害の話(胃の中からビニール等が見つかる)がなされた。アイスブレイクと軽い体操の後、5班に分かれて今回のコースである包ヶ浦管理センターから博打尾へ向かって10時30分に出発した。



敵島合戦の紙芝居実演

途中はいつものように各班ごとに植物や歴史の観察・解説が行なわれ、12 時 30 分博打尾根に着いた。

昼食後、博打尾根で小林（昀）会員から「厳島合戦」の紙芝居の実演、さすが現地での話は臨場感があり迫力がありました。

13 時 30 分紅葉谷に向かって下山、紅葉谷公園駅への到着は 14 時頃でした。

解散式では今回の観察会についての感想と要望等を聞いて散会となりました。

（ 坂本 俊弘 ）

盛夏の入浜池

7 月の入浜定点観測

日 時 7 月 17 日（土） 9 : 30～14:00

参加者 大西 小方嗣 小川 奥田 川崎
小林昀 佐伯 佐藤佐 佐藤庸 末原
田渕 中道 舛田 松田 村上 柳瀬
横路 吉崎 六重部

（環境省）西野自然保護官

	A	B	C	中央	C'	D	E	F	山水	海水
P H	6.0	6.2	5.8	6.2	6.0	6.2	6.5	6.2	5.9	7.1
塩分	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.81
COD	10	5	5	10	13	8	13	5	10	6

* E 地点の水位標準杭は、古木が倒れて当たったため、標準値が変動した可能性あり。

・野鳥観察

植物観察グループでは鳥の気配にも気を付けて歩いた。周囲にある中低木の枝でゆっくり飛び移っている小鳥がいた。地味ではあるがアイリングの可愛い鳥コサメビタキであった。ある人が、「人懐っこい鳥だね」と言うように目のまゝで十分姿を見ることができた。高木の先で囀っていた大きな声のホオジロの姿は、とても印象的で気付かれた人も多かったのではないだろうか・・・

観察できた鳥 コサメビタキ アオサギ
コゲラ メジロ トビ ミサゴ ウグイス
（v）アオゲラ エナガ セグロセキレイ
ヒヨドリ ヤマガラ ホオジロ カウウ
ハシブトガラス 15 種 （ 大西 順子 ）

・植物調査

いままで気がつかなかった植物、ウラジロマタタビ クマノミズキ タラノキ
カラスザンショウ ニワウルシ ナツツタ

・水質調査

梅雨明けの空のもと入浜池に着くと、池の水量は多く、周辺のヒトモトススキもよく繁っていた。A 地点から測定開始、池の水位は+10 cm、メダカが泳ぎ水面のアメンボウもスイスイと滑っている。C～D 地点では、陸地化も見られていたが林の奥から伏流水が湧き出し、流れとなって池にそそいでいる。ハンゲショウも増えていた。E 地点の北側の窪地には深さ約 20 cm の水が溜まり水生生物が泳いでいた。F 地点では、水量が多く（測定値 約 4800ℓ/分）、堆積した砂が流され水路が海までつながっていた。逆に池への海水の流入の有無を見ると、池の塩分濃度は全測定地点で 0%、P H は 5.8～6.5 と山水と同じ値を示して（海水の P H は 7.1）いるのでなかったようである。また水路出口の海岸の海水の塩分濃度は、通常では 2.4% のところ 0.81%、大雨による入浜池の環境の変化を実感した観察会でした。（ 横路 晃 ）

ウラジロチチコグサ ツメクサ キョウチクトウ を追記。池の中央あたりに、R D B カテゴリ「環境省」準絶滅危惧（N T）「広島県」絶滅危惧 I 類（C R + E N）のカワツルモを発見。海岸の岩場では、ハマナデシコの群落、ピンクの花が満開だった。

（ 六重部 篤志 ）

・水生生物

観察できたトンボ ウスバキトンボ シオカラトンボ オオシオカラトンボ キイトトンボ アオモンイトトンボ ムスジイトトンボ コシアキトンボ ヤゴ（イトトンボ・・・おしりに 3 本のエラがある）
その他コマツモムシ ハイイロゲンゴロウ
（ 舛田 祐子 ）

・水路整備

4 段 100 袋の土のうを積みました。

宮島二流記 (その6)

平田 広三郎

Q 6 : 「干満岩の不思議って

なんででしょうか？」

本題のきっかけは参考文献の著者（五来重）の見解なのです。

A 6 : 「不思議であることが

不思議なんです。」

禅問答みたいな書き出しで申し訳ありませんが、「不思議」を辞書で引きますと、「思いはかることができないこと」とありますので、それなりに不思議なことなのでしょう！ 干満伝説のあるお寺は過去にはどこにもあったと思われませんが、現在は本当に少なくなってきましたので、その「いわれ」の解明を弘法大師にゆかりのある四国八十八所遍路の寺に求めてみます。

参考文献の著者は、それが山の高いところにあっても、潮の干満が岩の中の水の干満につながっているというのは、海を拝むという海洋宗教の聖地であったことを示すものであると言っています。海洋宗教にもいろいろありますが、その中の一つが海のそばを歩く辺路（へじ：遍路の昔の表現）修行で、四国の場合は海岸の霊場というかたちで残っており、修行の場は奥の院となります。皆さんがお参りされる現在の霊場の寺は、辺路修行者にあやかるためにお参りする人が泊まる宿坊であり、集印帳に判を押したり、納経帳に寺名を書いたりする場所ですが、このような場所でも元来海が見えなくてはなりません、見えない場合でも境内の壺の中の水と海がつながっているという干満水の信仰を持っているのです。

例えば、松山市内の真ん中にある五十一番の衛門三郎伝説のある有名な石手寺の境内にある甕の中の水、南国市の三十二番禅師峰寺の場合は、庭にある「しおのみちひ岩」は「志を見岩」と呼ばれる干満岩、足摺岬の三十八番金剛福寺では涙の不増不减水だと言いながら塩干満石があります。

なお 修行の場である奥の院からはたい

も雲海という美しい海がみえます。

さて 宮島弥山の干満岩についてですが、「干満」と「塩水」に分けて考えてみましょう。干満ですが、瀬戸内海地方の潮位変動（潮汐）は、日本海側の者には脅威に感じられます。日本海側では年間を通して最大でも 50 cm 程度しか変動しませんが、瀬戸内海側のそれは約 4m もあります。しかし水圧に換算すると約 0.4 気圧（水圧 10m が 1 気圧）、一方 干満岩のあるところは海拔 500m で 50 気圧、水脈が通じていてサイフォンがきいたとしても干満を生じさせるのは無理な気がします。塩水の方は建前上海と通じているとっている以上誰かが補給・・・

弥山の干満岩には別の伝説があります。こちらは満干（みちひる）岩と言い、その昔三次市の光見寺の住職「能見」という者が、弥山で雨乞いの祈祷をするとき、祈祷札を書こうとしたところ、硯に水がなかったので、自分の杖で突いたら水が渾渾と湧いて出たというのがあります。

要は「仕掛け（辞書によれば、物事をある目的に合わせて、作りこしらえること）」なんです。当会のある女性が「昔のひとは仕掛けがじょうずだったんですね。」と言っています。科学の発達が進んだ時代にすむ我々にとって、1,000 年も持つ仕掛けができるのでしょうか。

次回 Q 7 : 「厳島神社の大鳥居の

不思議は？」

参考文献

- ・「四国遍路の寺 上・下」 五来 重（ごらい しげる）角川ソフィア文庫
- ・広島史話伝説 安芸備後の巻 巨石文化篇 広島郷土史研究会

「みせん」42 号発行予定

発行日 12 月 1 日

原稿締切 10 月末日

皆さんの投稿を お待ちしています

環境省研修会 生物多様性について

日 時 7月3日(土) 13:00 ~ 16:00

場 所 宮島市民センター

参加者 足立 池田 井上 岩崎 大西
小方ペア 小川 金山 川崎 北野
小林 昴 佐伯 佐渡 佐藤佐 佐藤庸
末原 田中 中道 野呂田 平田 平野
佛崎 舛田 松尾 松田 丸平 村上
吉崎
環境省 桑原・西野保護官 大高下 AR

(研修内容)

- 生物多様性条約と環境省の取り組み
環境省広島事務所 西野自然保護官
- 瀬戸内海の生物多様性と環境問題

広島大学総合博物館 清水則雄先生

2010 年は国連が定めた「国連生物多様性年」であり、10 月には生物多様性条約第 10 回締約国会議が日本で開催されるのに合わせ、生物多様性とはなにか、瀬戸内海ではどのような多様性が存在し、現在どのような問題があるかを学び、知識を深めて今後の保護活動に生かすことを目的とした研修会でした。

西野保護官より、生物多様性についての説明と現状及び環境省の取り組み状況の報告、



清水先生の講義

清水先生より世界一豊かな瀬戸内海（単位面積当たり）の現状及び問題点と広島大学の活動状況の報告がされました。

先生の講義は難しい内容や身近な問題等

いろいろありましたが、最後の質問時間では、自分の身の回りで感じられる魚介類の減少や増加に関する質問が次々と飛び出し、大変盛りあがりました。また予算不足から環境維持調査にも大きな影響が出ていると思われ、すぐに、ボランティア協力の問い合わせ確認も出て、参加者の意識の高さが感じられました。 (佐藤 佐十四)

包ヶ浦海岸清掃

日 時 7月10日(土) 9:00~12:00 頃

場 所 包ヶ浦海岸

参加者 足立 井上 大西 小方嗣 小川
川崎 小林 昴 佐伯 佐藤佐 島 末原
田中 中道 平田 平野 舛田 宮崎
三次 村上 柳瀬 吉崎 六重部
環境省 大高下 AR

昨年よりも一見ゴミが少なく思えたが、40 数個のゴミ袋と、何時もながらのかき養殖のプラパイプ、大きな流木、これらは末原さん



包ヶ浦海岸清掃

がチェーンソーで切断。いろいろの大型ゴミも 2 トラックに山積みにして作業終了。

昨年が続いて島さんの準備して下さったソーメン流しが始まる。炊き込みご飯、浅漬たくあん、手作りの素麺つゆ、とても美味しい。暑い中、仲間で力を合わせての作業のあと賑やかに昼食を終える。

来年も、その次も「ハマゴウ」の花がたくさん咲き、きれいな海、きれいな浜で海開きを迎えられる事を、願って帰途につく。

来年は 71 歳！元気で参加できるようにと願いつつ。 (田中 敏子)

野鳥・干潟観察会

日 時 8月7日(土) 9:00~14:00

場 所 旧陸軍道路(野鳥)及び小なきり浜(干潟)

参加者 岩崎 大西 金山 川崎 北野

小林(勗) 佐伯 末原 富田 中道 平野

舩田 村上 横路

観察コース: 宮島棧橋藤棚~要害山~旧陸軍道路
~杉之浦公民館~小なきり浜

猛暑続きの一日であったが、参加者の集まりが早く、待ち時間を利用して、是非会いたいと思う鳥(20種)を写真で紹介しました。

9:10 散策開始。直後にハシブトガラスを望遠鏡で数人の人に見てもらった。動きまわる鳥をじっと観察することは難しい、まずまずのスタートだった。



旧陸軍道路を歩き始めて小鳥の鳴き声や飛び交う姿が目立つようになり、沢山の人で探すとエナガやメジロの群に出会えた。また、カワラヒワが翼を広げて黄色の羽が目立つ美しい姿も確認できた。

体の大きいヒヨドリはあちこちで見かけたが、人気はいまひとつであった。道端のアカマツの木にコゲラ(キツツキ科最小)を発見!キツツキ科独特のポーズで止まり(太いまっすぐの幹に縦に止まる)嘴で幹を叩きながら(ドラミング)虫を探して採餌しているようだった。良く響くドラミングの音を聞き、「かなり強く叩いているようだなあ!」との感想が漏れていた。今日のハイライトであった。

「既に10時過ぎになっている!」と声がかかり、あとは公民館のそばの水辺の小鳥に期待することにして、小走りで急ぎ杉之浦を目指した。

公民館を前にして見上げた電線にコシアカツバメと普通のツバメが並んで止まっていた。それぞれの

特徴を比較しながら望遠鏡で確認できた。川にはセグロセキレイの幼鳥が尾を振りながら餌を探していた。10:30少し前には、公民館に入ることができた。皆さまお疲れさまでした。

(観察できた鳥)

トビ、コゲラ、ツバメ、コシアカツバメ、ハクセキレイ、セグロセキレイ、ヒヨドリ、ウグイス(√)、エナガ、ヤマガラ、メジロ(√)、カワラヒワ、スズメ、ハシボソガラス、ハシブトガラス、計 15 種

なお、午後小なきり浜へ移動中に、キジバト、ミサゴを追加確認した。合計 17 種

(大西 順子)

私は今年の4月から宮島地区パークボランティアの会に参加させてもらっています。本日は早朝に宮島に集合し午前中は宮島棧橋~杉之浦までの野鳥観察会、そして海岸生物の勉強会のあと、夏の太陽がジリジリと照りつける中での磯生物の観察会でした。

会員の中には野鳥、海岸生物にも知識を持つ方も多く、何より全てのことに熱心です。

会場の杉之浦公民館を出て、小なきりに着くと、海岸から離れた道路沿いに、淡い紫色の花をたくさん咲かせた「ハマゴウ」が出迎えてくれました。谷あいに群生する「ハンゲショウ」は時期を1ヶ月過ぎたせいか、だいぶ色あせていました。

浜では種付けを終えたカキ棚があり、広島湾ならではの風情です。大野瀬戸からは、やや離れた場所にある小なきり浜は比較的潮流もあり、きれいな磯で見られるカメノテ、オオヘビガイ、ヒジキ、ウミトラノオなどが見られます。イボニシは黄色の卵塊を岩に生みつけ、何より、「アオガイ」がこの場所では、初めて見られました。評価点 65.6 点は妥当なところだと思います。

(金山 芳之)





宮島のお花畑

中道 勉

お花畑とは、日本アルプスなど標高の高い山で一斉に咲く高山植物のことだと思っていたが「お花畑」は宮島にもあった。

7月の入浜汽水池を定点観測した時、その報告会で植物を担当した六重部会員が、もの静かに「ハマナデシコ」が咲いていると発表した。直ちに海岸の岩場を訪ねると鹿が届かぬ所に2、3株咲いていた。

帰宅後写真整理をしたが綺麗に撮れていなかったで、翌日再度撮影に行き岩場の裏側に回るとそこは鮮やかなピンク色のお花畑の世界が存在していた。感動のあまり、カメラを準備することもなく、しばらくの間哑然として言葉を失っていた。やがて汗を拭うこともなく無我夢中で撮影した。



この花畑から5分先の岩場では若者達が魚釣りや海水浴を楽しんでいたが、花畑には無関心で花の上に釣竿を置く者さえあった。腰細浦のイワタイゲキ、ハマゴウなど大切に保

存していききたい「花畑」である。

ハマナデシコ(浜撫子) (名前語源)

浜に咲く「ナデシコ」で、花の愛らしさを子供に見立てて、可愛い子供を撫でるような花というところから「撫でし子」といわれるようになった。

一般的に百合や牡丹、芍薬など印象の良い植物は、人を褒め称える時に引合い出されるが、ドクダミやヘクソカズラは反対言葉である。よってアテネ・オリンピックに参加した女子サッカー・チームの「ナデシコ・ジャパン」は素敵な名付け故に負けても誰も怒る者はいなかった。

ウスキキヌガサタケ

田淵 三紀子

「あっ！のびた」誰かが小声で言った。フルッ フルッまるで音が聞こえるかのように、山吹色のドレスの裾を伸ばし続ける。

モジリアーニの絵の中の女性が被っているような、暗緑色の帽子にメロンの網目を表面にあしらったグレバ(傘の部分)そのグレバに畳みこんだレースのドレスは、少しずつ広がり始めた。最初はタイトのミニスカートの女性、やがて腰まで伸びたマントを纏った女性、レースは伸び続けて足が隠れてしまった。

これは7月7日昼前、極楽寺山 牛池方面への尾根道で出会った、ウスキキヌガサタケ誕生の模様です。(次ページに写真)

優美なドレスに身を包んだ貴婦人のような「ウスキキヌガサタケ」運よく幻想的な成長の過程に遭遇し感動しました。

伸び方の違いで中間がウエストのようにくびれ上と下が同時に伸びていく個体もあった。一個体のショーは40分から1時間ほどだったが、4本のショーを見ることが出来た。

林床には木漏れ日が揺れ、それに呼応する

かのように菌網が目に見えて伸びていった。グレバの内側は灰色で坊主地獄のようにボコボコしており、柄は中空で柔らかく、スカスカしたスポンジ状、ちょうど白い揚麩菓子のようなだった。



腐葉土に埋もれたツボは淡紅色を帯びた生成り色。グレバから発する匂いは、百合の花粉の腐った匂いと表現されるように、近づくと臭い。その匂いでショウジョウバエなどの虫を呼び寄せ表面についている胞子を足につけさせ運んでもらう。美しいレースは色、形で虫を呼ぶための役目を負っている。

南方系のキノコなので以前は珍しかったが、最近はどんどん北上しており、よく見られるようになったと聞いている。キノコの世界でも温暖化の波が押し寄せているのだろうか。

極楽寺山、山道沿いには営みを終えて土に還りはじめているものや、前日に成熟したもの、ツボが割れて粘液に包まれた頭を見せているもの、固い幼菌などが 60 本近くも点在していた。

赤松やコシアブラ、アカガシなどの高木が覆い繁る林床は、腐葉土層が発達し、深々としてカビ臭いような土の香りが嬉しかった。

環境の日 ひろしま大会

今年も 6 月 6 日(日曜) 県庁前広場を会場に出展 38 団体にて「環境の日」ひろしま大会が行われた。昨年より 6 団体増え、企業、大学、団体が多方面で環境に対する活動を実践していることを知ることができる。

会場は 10 時の開始から多くの人を訪れ、環境への関心の高さから家族連れなどで大変な賑わいとなった。

「エコ実験」「環境紙芝居」などのイベントが行われ、「環境クイズラリー」などで環境学習ができるよう工夫した展示が見られた。

今年のキーワードは

「2010 年国連が定める国際生物多様性年」「COP10 名古屋会議」・・・取っ付き難いか、残念ながらあまり目立ったアピールはなかったようだ。(岩崎 義一)

廿日市市民センター祭り

PVの会も登録している「廿日市市民活動センターまつり」が、3/14(日曜) 廿日市市住吉の同センターで開催された。(参加約 300 人) PVからは村上会長・足立副会長と岩崎が参加した。

158 の会員団体の日頃の活動が写真やイラストで紹介されていて、宮島PVの会の活動状況も一年間、センター内の壁面に掲示される。展示では自然環境保護だけでなく、国際交流や文化活動など地域コミュニティの活動に多くの市民が参画していることが実感でき、よい刺激になった。(岩崎 義一)

晩秋の公募観察会

本年度 2 回目の公募観察会を
11 月 20 日(土)に実施します、
会員の下見は 11 月 13 日(土)です。
コースは弥山山麓遊歩道で自然と歴史
探訪を予定しています。
詳細は後日連絡します。(観察部会)



日 時 8月1日(日) 9:00~12:00

参加者 足立 池田 井上 大西 小川
小林 舘 佐藤 佐 末原 田中 平田
平山 舩田 村上 柳瀬 横路

PV以外の参加者

- ・宮島を美しくする会 7名・一般参加者 6名
- ・廿日市市職員 5名・宮島支所職員 3名

参加者計 36名で次のとおり清掃作業を行いました。

- 1班 宮島を美しくする会(7名) 有の浦海岸清掃
 - 2班 西松原~大元~あせび歩道~紅葉谷公園(7名)
 - 3班 宮島栈橋~うぐいす歩道~紅葉谷公園(5名)
 - 4班 包ヶ浦~杉之浦(県道)~宮島栈橋(5名)
 - 5班 包ヶ浦~杉之浦(旧道)~宮島栈橋(5名)
 - 6班 宮島栈橋前でポケット灰皿配布~要害山(4名)
 - 7班 ごみ収集班(3名)
- ・ゴミ収集量 180kg (燃えるゴミ 120kg、カン・ビン類 30kg、不燃ごみ 30kg)

(末原 義秋)

厳島神社海浜清掃

日 時 7月26日 13:00~15:30

参加者 井上 五石 小林(舘) 佐藤(佐)
佐藤(庸) 末原 富田 平田 平山 村上
7月28日の管絃祭を前に、神社回廊の西側
付近の海浜清掃(2回目)を行いました。

今年はアオサが多く、熱中症が心配される
暑い中での除去作業でしたが、神社の方との
協働で予定通りできました。もう少しの人数
があれば大鳥居までいけたのではないかと思

っています。

清掃後は全員が厳島神社でお祓いを受け、
また神社の方からは来年もよろしくとのことのお話
もありました。

(平田 広三郎)



神社西側での清掃作業

◇ 編集後記 ◇

▼10年前の夏、「みせん」創刊号を編集して
いる時も猛烈な暑さだったと記憶しているが、
今年の夏はその時よりはるかに厳しく、盆を
過ぎても一向に和らぐ気配がない。猛暑日が
長々と続くと、もはや今夏が異常なのでなく、
来年以降もこの状態になると想像するだけで
暗澹となる。安易に地球温暖化のせいにして
も仕方がないし、さりとてどうすれば良いか、
いまこそCOP10の意義について考えてみ
るのもよいかも。 (足立)

瀬戸内海国立公園

宮島地区パークボランティアの会

事務局 環境省 中国四国地方

環境事務所 広島事務所

(〒730-0012)

広島市中区上八丁堀 6番 30号

広島合同庁舎 3号館 1階

TEL(082)223-7450・FAX(082)211-0455

宮島詰所

(〒739-0505)廿日市市宮島町 1162-18

(宮島栈橋 2F)